

【研究ノート】

高崎市指定史跡 明治天皇新町行在所

歴史民俗資料館 令和5年度第1回企画展「明治11年
天皇を迎えた新町行在所―歴史を生きた人たち―」

歴史民俗資料館 嘱託職員（学芸員）

大工原 美智子

展覧会の趣旨

令和5年度第1回企画展「明治11年天皇を迎えた新町行在所―歴史を生きた人たち―」は、1991年（平成3）に高崎市指定史跡となった明治天皇新町行在所の文化財保護を目的に、歴史民俗資料館収蔵の明治天皇新町行在所関係資料を整理・調査・研究して展示し、行在所と高崎市新町の歴史を広く紹介するために実施した。

展覧会の概要

展示会場 高崎市歴史民俗資料館 高崎市上滝町1058

開催期間 令和5年6月3日（土）～7月2日（日）

開催日数 26日

入館者数 551人

主な展示資料 当館収蔵の新町行在所関係記録など

展示の手法

2006年（平成18）の新町と高崎の合併に伴い、当館に移管された新町役場時代の行在所関係資料の内容を

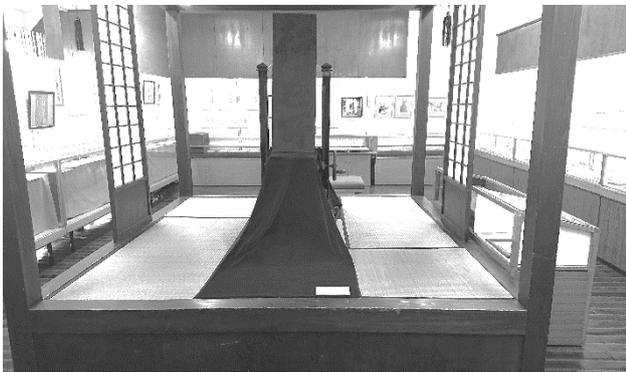
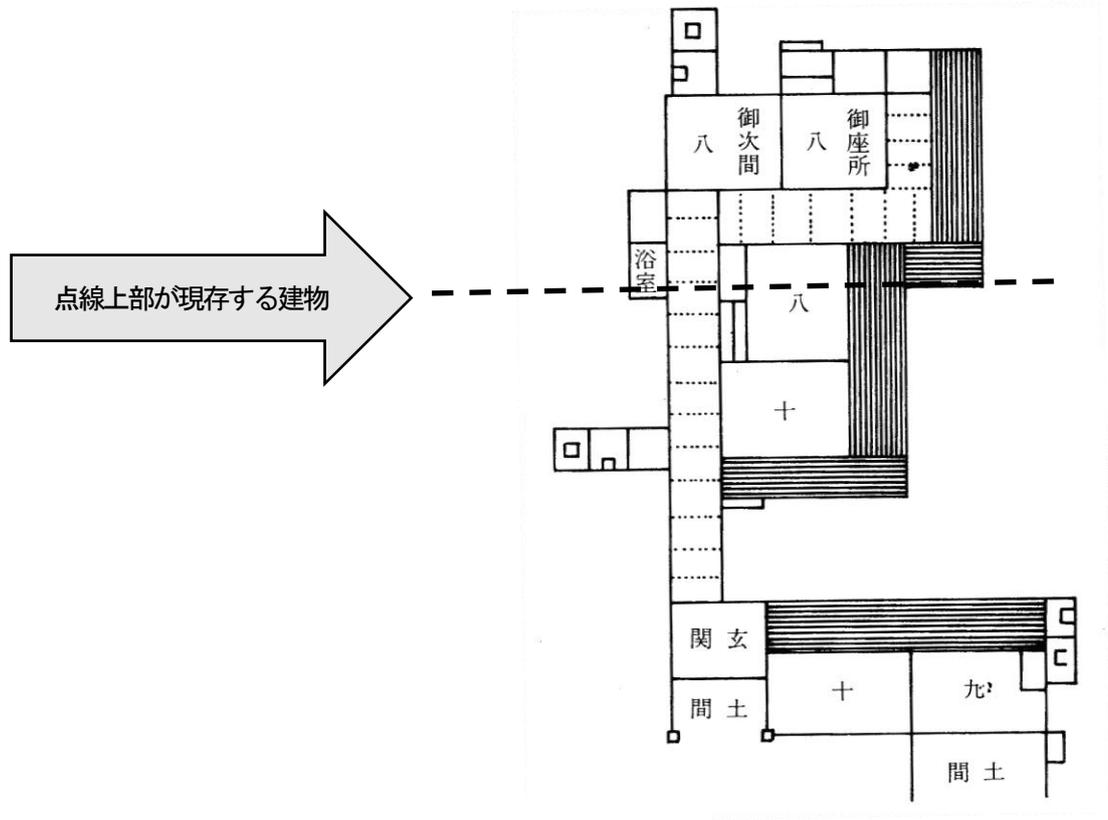


建設当初の面影を残す行在所外観（時期不明）



現在の行在所外観（2023年4月26日撮影）

建設当初の行在所平面図



企画展示室の展示風景

時系列に整理し、行在所の変遷を明らかにして、『新町町誌』（註1）をはじめとする既存資料（註2）と照会しながら事実関係を確認した。展示の際にストーリー性を持たせ、観覧者にわかり易くなるよう工夫した。

各コーナーの展示

明治天皇巡幸の概要と行在所の変遷、新町の人たちの対応等を織り交ぜながら立体的に理解ができるように展示資料を配置した。また、個人情報も多く含まれているため、資料を精査して厳選する配慮をした。

コーナー名	項目
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ・明治天皇の行幸と巡幸 ・六大巡幸
北陸東海道巡幸	<ul style="list-style-type: none"> ・明治11年の巡幸
羈客所	<ul style="list-style-type: none"> ・羈客所の時代 ・羈客所の建設費 ・羈客所から「明治天皇新町行在所」の時代へ
新町屑糸紡績所行幸	<ul style="list-style-type: none"> ・新町屑糸紡績所
史蹟名勝天然記念物 昭和八年十一月二日指定	<ul style="list-style-type: none"> ・明治天皇の崩御 ・明治天皇聖蹟保存 ・内務省の史跡調査 ・史蹟名勝天然記念物保存法のおもな規定 ・史蹟名勝天然記念物保存 内務省から文部省へ移管
明治天皇新町行在所	<ul style="list-style-type: none"> ・明治天皇聖蹟保存会 ・明治天皇聖蹟の解除
新町々長 笛木玄次郎の記録控	
エピソード集	

展覧会の状況

これまで明治天皇新町行在所は、2月から3月にかけて商店などが大事にしてきた人形や寄贈された人形を旧新町の43か所に飾る「新町ひなまつり」のメイン会場として17回活用されてきた。

ところが、この行在所が市の指定史跡であり、明治天皇の宿泊所であったということはあまり知られてこなかった。しかも、明治天皇の巡幸のうち、新町に宿泊した1878年（明治11）の巡幸が岩倉具視や大隈重信、井上馨といった政府の要人300人余と警衛400人余、その他を含む総勢800余人という最大規模の一行を新町だけで受け入れたという史実は、現

在の新町にはほとんど伝えられていない。

これは行在所の建物の外観しか見学可能できないこと、現在保存されている関係資料が行政文書であり、公開されてこなかったこと、また、これまでこの巡幸について集成されたものがなかったことなどが大きな理由と思われる。

展覧会準備中に、新町役場時代の行在所関係資料を読み込んでいく中で、昭和10年に明治天皇聖蹟保存会設立を控えた新町々長笛木玄次郎が、巡幸について自ら資料を収集し、聞き取りをしてまとめたものを発行しようとした旨がわかる原稿を発見することができた。このことは、今回の企画展の意義を大

いに高めた。この資料は後出の「展示資料一覧」No.10 御巡幸記録帳であり、次のように記されている。

我が新町に明治天皇行在所が現存してしかも外観内造よく旧規を残して在ることは、由来名勝に乏しい我が町としては、畏しとも貴しとも申しよなき郷土の光栄である。この聖蹟の記録を取りまとめたいとの一念を抱くこと年すでに久しいものありしが、こと皇室に関する限り、心として一貫した叙述をするには余り断簡寸墨の帳有り。頃日幸いにして当年の御巡幸記『陸路廻記（くぬがちのき）』（筆者註3）を通読する機を得たるをもってこれを根幹とし在駅（新町）の記録を挿記し、なお聞説遺稿を補叙して辛うじて本に記録を作る。もとより叙事足らず、記載拙なり他日再年完璧を期すべしといえどもあたかも保存会の創設に当り早荒謄写して初版となす。

とあるように、行在所についての記録を残そうとしたことがわかるが、「初版」とあるものの、この内容で出版されたものが見つからず、実現したかどうか不明である。しかし、今回の企画展では、この町長の原稿が全体を知る手がかりとなり、行在所で天皇がご覧になった古器物の内容や御膳水の水質検査の結果等、これまで知られてこなかった詳細な記録が残されていることが明らかとなった。

文化財的価値

明治政府は、天皇の存在を国民にアピールするために全国各地への行幸と巡幸を行い（註4）、明治初年から45年までの間に計97回、毎年欠かさずに近代化を象徴する建物や産業、教育などの施設を訪れ、文明開化や殖産興業の促進を図った。戦前は、明治天皇が日本の近代化を成功させたと顕彰されており、巡幸先だった各地方で天皇の聖徳を偲ぶ記念展が開かれ、記念誌も刊行されて、聖蹟を巡る修学旅行も

盛んに行われていた。

戦後は明治天皇の巡幸が研究対象となり、明治5年の熊本県、明治9年の福島県・宮城県、明治11年の長野県・新潟県、明治13年の長野県、明治14年の福島県・宮城県・山形県・北海道の研究成果により、各県における巡幸の実態が明らかにされて地域社会にとっての巡幸の意義が論じられるようになった。しかし、個別の地方・地域の研究から広域にわたる巡幸の全体像を論じるのは難しく、巡幸の実態を実証的に掘り下げた研究は不十分であるといえる。

このようなことから、巡幸に関する資料の中心は中央官庁所蔵文書に限定され、地方の府県庁や郡町村の文書は未収録であるため、巡幸や一般の人たちへの対応の仕方がどのようなものだったのか、他との共通性はあるのか、巡幸の施行年による対応の変化はあるのか等については、未だ解明されていない。

今回の企画展では、地方における巡幸の実態を明らかにするために、まずは巡幸時の官庁の準備と県民への対応等のわずかな資料を収集して分析し、さらに未公開だった当館収蔵資料によって天皇を迎えた新町の様子がいかなるものであったかの概要を捉えることができた。

群馬県内の5日間の滞在の中で、宿泊所となった行在所は新町のほかに、高崎（高崎五大区務所）、前橋（本町の生糸改所）、松井田（警察署）であるが、現在まで保存されているのは新町だけであり、巡幸の新町における歴史的意義と文化財的価値を提示することができた。とはいえ、未だ全容解明とまではいかない状況にあり、さらなる情報収集が必要となる。

今後は、当館収蔵資料から行在所建物の部材資料等の分析を行い、当初の建物や手直しの状況の解明を行うとともに、新町の住民をはじめとする市民の皆さんとその価値を共有し、行在所や巡幸に対する理解と愛着の醸成につなげていきたい。

展示資料一覧

No.	資料名	日時	備考
1	明治天皇新町行在所建札（櫃入）	明治11年	表書：宮内省大書記官山岡鉄太郎 または宮内省御用掛日高秩父 裏書：群馬県令楫取素彦
2	北陸東海両道御巡幸布告（写）	明治11年5月23日	太政官三條実美→群馬県
3	御巡幸用達心得申付	明治11年7月17日	群馬県→副区長千木良金内
4	新町行在所写真	時期不明	
5	北陸東海巡幸明細記（写）	明治11年10月13日	栗田東平編輯 慶雲堂
6	明治十一年七月御巡幸用掛中回覧并往復留（控）	明治11年6月24日	御巡幸用掛内膳内匠御接掛用達掛 宮田一等属→新町御用達
7	諸請書留 御巡幸御用掛（控）御受	明治11年8月	第十五大区壺小区緑埜郡新町駅富澤半十郎→楫取群馬県令
8	当時の新町（控）戸長・副戸長・副区長		
9	明治天皇行幸年表		
10	御巡幸記録帳	昭和10年6月	新町町長笛木玄次郎
11	陸路廻記（写）	明治13年4月	宮内省蔵版
12	明治天皇行幸紀行文集「陸路廻記」全二冊	明治13年	6月発行 宮内省蔵版 文学御用掛近藤芳樹著
13	桐箱入 御巡幸御宿割口	明治11年7月29日	千木良雅蔵
14	御巡幸御宿割一覧表	昭和8年10月24日	
15	ノート	明治11年7月29日	千木良雅蔵
16	諸入費調書至急取調直通達	明治11年11月1日	御巡幸御用掛→新町駅御巡幸用掛用達
17	御巡幸事務検録	明治11年9月2日	戸長松村由作→宮内省内務課
18	新町行在所写真	時期不明	
19	御膳水写真	昭和11年9月20日	群馬県社寺課視察時撮影
20	内膳課御買上ヶ品其外		
21	慰労金下賜	明治11年9月21日	群馬県→副戸長高橋均作
22	慰労金下賜	明治11年9月21日	群馬県→副区長千木良金内
23	行在所および関係施設建設と手直しの記録		
24	記（控）第十五大区一小区 緑埜郡新町駅行在所ヨリ製法紡績所迄距離		戸長松村由作→群馬県令楫取素彦
25	緑埜郡新町駅屑糸紡績場撮影記録（控）	明治11年9月7日	（前橋）曲輪町 大村昇平
26	緑埜郡新町駅屑糸紡績場 撮影記録（控）	明治12年11月10日	
27	明治天皇新町紡績所行幸記念碑除幕式記念絵葉書	昭和12年11月3日	絵葉書3枚 鐘淵紡績株式会社新町工場
28	鐘淵紡績会社新町支店沿革概要	昭和7年11月	（群馬県史・古文書ニヨル）
29	明治天皇行在所門標識周圍柵設計図		
30	明治天皇行在所門塀中仕切柵設計図		
31	塀断面図		

No.	資料名	日時	備考
32	明治御巡幸ニ関スル資料蒐集ノ為行在所 図面并ニ関係書類等謄写依頼	大正12年10月8日	臨時帝室編修官本居清造→新町町 長三島安次郎
33	明治御巡幸ニ関スル資料蒐集協力依頼	大正12年11月6日	臨時帝室編修局事務官事 務取扱豊原資清→新町町長
34	明治御巡幸ニ関スル資料蒐集	大正12年11月1日	
35	礼状	昭和8年9月12日	宗教局保有課調査室古谷清→新町 長須賀菊男
36	明治天皇行在所略記	昭和8年4月	
38	史蹟名勝天然記念物保存法規	昭和8年9月16日	文部省(昭和5年5月作成)
39	附録指定史蹟名勝天然記念物保存法規	昭和8年9月16日	文部省(昭和5年5月作成)
40	史蹟指定内申	昭和8年9月19日	文部省 群馬県多野郡新町→文部 大臣鳩山一郎
41	論評時事新聞切抜「時事群馬版」	昭和8年10月25日	
42	明治大帝聖蹟第一次指定発表	昭和8年11月2日	
43	史蹟名勝天然記念物保存協会規則・入会申 込書	昭和8年11月6日	
45	史蹟指定トナリ協議会開催 協議事項案	昭和8年11月14日	
46	史蹟指定トナリ協議会開催	昭和8年11月14日	
47	明治天皇新町行在所参道築工ニ関スル件	昭和8年11月16日	
48	明治天皇新町行在所参道奉仕記録	昭和8年11月16日	
49	明治天皇行在所拝観ニ関スル件	昭和8年11月16日	新町長→各区長・各組長
50	備忘録	昭和8年11月19日	新町役場
51	行在所拝観願	昭和8年11月21日	多野郡吉井町女子青年団長→多野 郡新町長
52	拝観ニ関スル礼状	昭和8年11月21日	児玉郡長幡小学校長→新町役場
53	新聞記事「評論時事」	昭和8年11月25日	
54	史蹟管理者指定ニ関スル件	昭和8年11月27日	学務部長→多野郡新町長
55	名所案内標建植願	昭和8年11月28日	新町長矢内新三郎→新町駅長柴田 賢次郎
56	史蹟管理者指定	昭和8年12月9日	多野郡新町→文部大臣鳩山一郎
57	書簡	昭和8年12月3日	明治天皇聖蹟保存会会長西郷從徳 →多野郡新町長矢内新三郎
58	史蹟明治天皇新町行在所保存施設ニ関ス ル件	昭和9年7月9日	学務部長→多野郡新町長
59	史蹟明治天皇新町行在所保存施設ニ関ス ル件	昭和9年7月12日	学務部長→多野郡新町長
60	史蹟保存施設ニ関スル件	昭和9年9月15日	群馬県多野郡新町長笛木 玄次郎→文部大臣松田源治
61	明治天皇聖蹟調査ニ関スル件	昭和9年7月16日	新町長→学務部長
62	史蹟明治天皇新町行在所保存施設ニ関ス ル件	昭和9年9月22日	学務部長→群馬県多野郡新町長

No.	資料名	日時	備考
63	史蹟明治天皇新町行在所保存施設ニ関スル件	昭和9年9月24日	新町長→群馬県知事
64	史蹟保存施設中注意札建設位置変更許可願	昭和9年10月4日	群馬県多野郡新町長笛木 玄次郎→文部大臣松田源治
65	史蹟明治天皇新町行在所保存施設ニ関スル件	昭和10年2月8日	新町長→群馬県知事
66	注意札設計図		
67	明治天皇新町行在所注意札記載文辞	昭和9年月日	
68	史蹟 明治天皇新町行在所注意札建設箇所 変更ノ件	昭和9年11月2日	学務部長→多野郡新町長
69	明治天皇聖蹟保存施設視察ノ為文部省軍 事課ニ関スル件	昭和10年2月9日	学務部長→多野郡新町長
70	史蹟見学団来県ニ関スル件	昭和10年3月5日	群馬県史蹟名勝天然記念物調査会 →多野郡新町
71	史蹟保存施設注意札建設位置図		
	明治天皇新町行在所保存施設工事	昭和13年5月11日	管理者群馬県多野郡新町長笛木玄 次郎→文部大臣侯爵木戸幸一
72	岩倉橋	時期不明	
73	新聞記事「岩倉橋の災害復旧を陳情」	昭和16年10月31日	東京日日新聞
75	明治天皇奉迎記録	昭和8年10月6日	
76	「明治の聖蹟」第3巻 第9号	昭和7年9月3日	明治天皇聖蹟保存会発行
78	『上毛及上毛人』誌上掲載のお知らせ	昭和9年8月18日	豊國義孝→新町役場
79	『上毛及上毛人』209号	昭和9年	9月1日発行
80	『上毛及上毛人』279号	昭和15年	4月1日発行

註1 新町町誌編纂委員会 1989『新町町誌』新町教育委員会

註2 長谷川栄子 2012『明治六大巡幸—地方の布達と人々の対応—』熊本出版文化会館

註3 近藤芳樹 1880『陸路迺記』上 宮内省

註4 明治天皇聖蹟保存会 1933『明治天皇行幸年表』大行堂